



平成26年度

平成25～29年度文部科学省 SSH 指定校

平成26年8月18日(月)実施

## 北鷹SSH通信 no.13

秋田県立秋田北鷹高等学校

本校 <http://www.akitahokuyou-h.akita-pref.ed.jp/>SSH <https://ssh.jst.go.jp/>

## 第6回ロケット甲子園(全国大会)

8月15日～22日に能代宇宙広場(秋田県能代市)を会場に第10回能代宇宙イベント(後援:内閣府宇宙戦略室、文部科学省他)が開催され、その中の第6回ロケット甲子園(日本モデルロケット協会主催)に科学部が出場しました。

今回は、昨年度優勝した「チーム北鷹」(2年生3名、国際大会出場)と新人の「チームブルースカイ」(1男年生3名)の2チームがそれぞれ2回のロケット打上に挑戦しました。

## 第6回ロケット甲子園ルール(抜粋)

ロケットの全長は65cm以上で、機体総重量は650g以下。生卵1個搭載。  
滞空時間は46～48秒。指定高度は244メートル(1回目)、236メートル(2回目)  
卵搭載部分とエンジン搭載部分は分離されて着地しなければならない。  
卵のひび割れは失格。

参加チームは、北海道2チーム、岩手県2チーム、秋田県5チーム、埼玉県1チームの計10チームでした。大会の様子を紹介します。



大会の成績は次のとおりです。得点は打上高度と滞空時間から計算され、得点が低いほど成績が良く、0点が最良得点です。

チーム名	1回目得点	2回目得点	結果
チームブルースカイ	卵紛失のため失格	96点	3位入賞
チーム北鷹	パラシュートが開かず失格	175点	4位

国際大会でも評価されましたが、本校のモデルロケットはエンジン以外ほぼ手作りです。ロケットの重心と空力中心の調整、卵が割れない機構の研究など数多くの努力の成果で空高く飛んで行き、再び帰って来ます。

今回は機体のトラブルで3位となりましたが、次の大会では再び優勝したいと科学部全員が考えています。

## ロケット甲子園の成果

本校ではSSH科目「宇宙研究」を設定しており、この科目では宇宙開発利用に関することを学んだ後で課題研究を行います。モデルロケットを「宇宙研究」の教材として使用するために、「宇宙教育」と「ものづくり教育」の実践的研究の一環として科学部がロケット甲子園へ出場してきました。

参加生徒は、モデルロケットの製作と打上をとおして、「理学と工学」に関する知識と経験を深めるとともに「ものづくり」における設計・製作の実践力を高めました。

これまで蓄積したモデルロケットに関する指導方法を学校設定「宇宙研究」に生かしていきます。